

溶融炉の選定を見送った市町村の主な理由

市町村名	時期	主な理由
都城市(宮崎県)	平成20年7月	<ul style="list-style-type: none"> ●技術的に高度化した反面、運転も難しくなり運転事故の事例も報告されている。 ●エネルギーの消費量が増加するとともに排ガス量の増加も見込まれ、環境負荷の面においても課題がある。
四条畷市(大阪府)	平成21年10月	<ul style="list-style-type: none"> ●CO2排出量が多く、地球温暖化防止対策としては、必ずしも良い選択肢ではない。
豊中市(大阪府)	平成22年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣施設でのスラグ再利用状況を踏まえると確実な全量資源化利用は懐疑的。 ●長期間にわたり安定的に稼働してきた方式を新ごみ焼却施設でも採用することで、安全、安心を第一義とする近隣との信頼関係につながる。
横須賀市(神奈川県)	平成23年8月	<ul style="list-style-type: none"> ●運転管理が高度。 ●自前によるスラグの有効利用が困難。
船橋市(千葉県)	平成23年12月	<ul style="list-style-type: none"> ●溶融スラグの安全性と有効利用が容易でない。 ●維持・管理費が多額である。
横手市(秋田市)	平成24年7月	<ul style="list-style-type: none"> ●補助燃料として多量の外部化石燃料を必要としたり、大量の電力が必要になる。
富士市(静岡県)	平成25年1月	<ul style="list-style-type: none"> ●安全性、安定性、経済性、溶融スラグの需要等の問題がある。
川崎市(神奈川県)	平成25年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●溶融スラグを埋め立てた場合、スラグ化に要する費用に対し、最終処分場の延命化に十分な効果を期待できない。 ●厳しい財政の現況を勘案し、「経済性」を重視。